

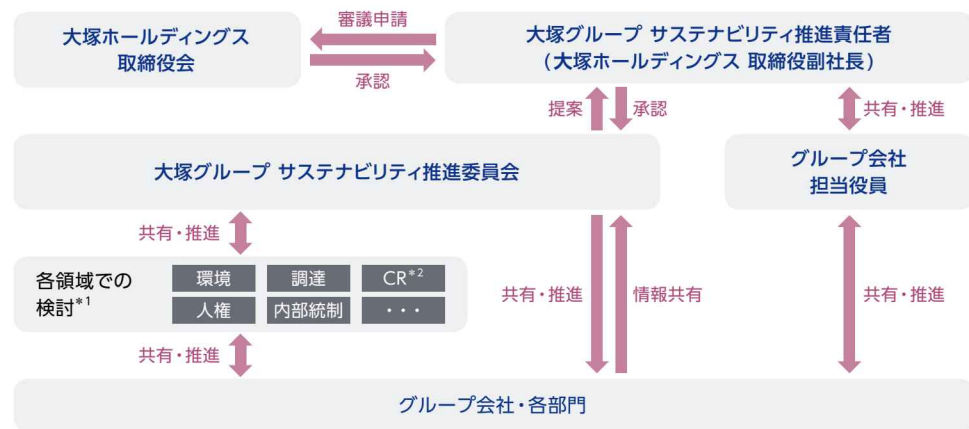
| | | | | | | | | | | | | |
|----|------|------|----------|-----------|------------|-------------|-------------|-------|--------|----------|----------|------------|
| 目次 | 編集方針 | 会社概要 | トップメッセージ | 方針・マネジメント | カーボンニュートラル | サーキュラーエコノミー | ウォーターニュートラル | 生物多様性 | 化学物質管理 | サプライチェーン | エンゲージメント | データ集・第三者検証 |
|----|------|------|----------|-----------|------------|-------------|-------------|-------|--------|----------|----------|------------|

環境マネジメント

サステナビリティマネジメント

大塚グループでは、大塚ホールディングスのサステナビリティ推進責任者である取締役を委員長とする「大塚グループ サステナビリティ推進委員会」を2018年に設置しました。本委員会では、大塚グループ全体のサステナビリティの実現に向けた取り組みの推進を目的としており、サステナビリティに関する方向性や計画等を討議・決定する組織です。委員会を開催して定期的な方向性の討議や活動の評価等を行うほか、必要に応じて、各推進領域の体制整備や推進計画の更新を行います。委員会メンバーはサプライチェーン、環境、人事、総務、コンプライアンス・リスク管理、広報等のさまざまな領域のグループ責任者で構成され、グループ会社・各部門の担当者と共に詳細な検討を実施しており、大塚ホールディングスのサステナブル推進部、IR部、経営企画部が事務局となっています。

■サステナビリティ推進体制



*1 さまざまな会議体やWG・TF等(時限PJ含む)で活動を推進する
 *2 Consumer Relations: 企業と消費者との信頼関係を構築するための活動

大塚グループ環境方針

大塚グループは、人々の健康と地球の健康に貢献する、なくてはならない企業を目指して、創造性を持って課題に挑戦し続けることにより、人と地球が将来にわたって共存できる社会を実現します。

環境活動指針

- 1. カーボンニュートラル**
事業活動全体でカーボンニュートラルに取り組み、脱炭素社会の実現を目指します。
- 2. サーキュラーエコノミー**
化石資源由来原料からの脱却とゼロ・ウェイストに取り組み、サーキュラーエコノミー型社会の実現を目指します。
- 3. ウォーターニュートラル**
水を大切に使いキレイに還す取り組みを通して、水資源の持続可能な利用を目指します。
- 4. 環境コンプライアンス**
環境マネジメント体制を継続的に改善し、コンプライアンスの実効性を高め、リスクを低減します。
- 5. コミュニケーション**
環境に関連する情報を透明性高く積極的に開示し、ステークホルダーとのコミュニケーションを推進します。

(2022年6月改訂)

環境マネジメントシステム

大塚グループ ISO14001 統合認証

大塚グループでは、効率的で実効性の高い環境活動の推進を目指してグループ全体での取り組みを強化すべく、2020年8月にISO14001の統合認証取得を開始し、2022年には国内7社*1および統括組織の大塚ホールディングスに拡大、これにより統一された環境目標、マネジメントシステムのもと、環境の取り組みをさらに強化し、グループ一体となって目標達成に向け取り組んでいます。

大塚グループISO14001取得状況は統合認証を含め、国内12社、海外14社(2022年12月末現在)です。

*1 大塚製薬、大塚製薬工場、大鵬薬品(子会社の岡山大鵬薬品を含む)、大塚化学、大塚食品、大塚テクノ、イーエヌ大塚製薬



ISO14001 審査登録証

マテリアリティ

| | | | | | | | | | | | | |
|----|------|------|----------|-----------|------------|-------------|-------------|-------|--------|----------|----------|------------|
| 目次 | 編集方針 | 会社概要 | トップメッセージ | 方針・マネジメント | カーボンニュートラル | サーキュラーエコノミー | ウォーターニュートラル | 生物多様性 | 化学物質管理 | サプライチェーン | エンゲージメント | データ集・第三者検証 |
|----|------|------|----------|-----------|------------|-------------|-------------|-------|--------|----------|----------|------------|

2050年環境ビジョン「ネットゼロ」

—事業活動のすべての環境負荷をゼロに—

大塚グループは、トータルヘルスケア企業として地球環境の負荷低減に真摯に取り組み、健やかな未来に続くサステナブルな社会の実現に貢献するため、環境における中期目標の達成と2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を目指していきます。



2028年 目標
CO₂排出量を
2017年比
50%削減



2028年 目標
廃棄物の単純焼却・埋立を
2019年比 **50%削減**
2030年 目標
PETボトルにおけるリサイクル原料
および植物由来原料の
使用割合 **100%**



2028年 目標
工場の水管理プログラムを
グローバル全拠点へ展開
水ストレス地域の事業拠点
に対し、水利用戦略立案

| マテリアリティ | 社会課題 | 目標 | 活動 | 2022年度の進捗 | 主に関連するSDGs |
|---------------------------|---------------------|--|---|---|----------------------|
| カーボンニュートラル ^{*1} | ・地球温暖化 | 2028年目標 ・CO ₂ 排出量2017年比50%削減 | ・バリューチェーン全体のCO ₂ 排出量削減 | ・インドネシアグループ4社 ^{*4} によるCO ₂ フリー電力 ^{*5} の導入 ・インドに大規模太陽光発電設備の導入(大塚ケミカルインドネシア) ・国内のエネルギー管理の一元化に向けた統合エネルギーサービス体制の構築 | 6, 7, 12, 13, 14, 15 |
| サーキュラーエコノミー ^{*2} | ・環境負荷の増大 | 2028年目標 ・廃棄物の単純焼却と埋立を2019年比50%削減 2030年目標 ・PETボトルにおけるリサイクル原料および植物由来原料の使用割合100% | ・資源効率向上による環境負荷軽減 ・社会・地球共に持続可能な状態を目指した事業活動の推進 | ・PETボトル水平リサイクルの推進 ・リサイクルPET樹脂利用PETボトルの販売拡大 ・ポカリスエット 循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」で販売開始 ・サステナビリティプログラム「Otsuka Blue Planet」 | 6, 7, 12, 13, 14, 15 |
| ウォーターニュートラル ^{*3} | ・水リスクによる淡水の利用可能量の減少 | 2028年目標 ・工場の水管理プログラムをグローバル全拠点へ展開 ・水ストレス地域の事業拠点に対し、水利用戦略立案 | ・水リスクの把握 ・水資源の管理と有効利用 | ・水源管理プログラムを3拠点にて実施 | 6, 7, 12, 13, 14, 15 |

*1 事業活動によるCO₂排出量を実質的に(「排出量」から「吸収量」を差し引いた合計)をゼロにすること *2 事業活動から排出される廃棄物を新たな原材料として再利用し資源を循環させる経済システムの構築
*3 事業活動による取水・排水による水資源への影響をゼロにすること *4 PT大塚インドネシア、PTアメルタインダ大塚、PTウィグトラパティ、PTラウタン大塚ケミカル
*5 CO₂を排出しない再生可能エネルギーに由来する環境価値を利用した、実質的にCO₂フリーとなる電力(実質CO₂フリー電力)も含む